

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(平成28年度)

平成29年3月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	
1. はじめに -----	2
2. 評価の目的 -----	2
3. 評価のスケジュール -----	2
4. 学校関係者評価委員会委員 -----	3
5. 本評価報告書の内容 -----	3
6. 本評価報告書の公表 -----	3
II 学校関係者評価結果	
1. 総合評価 -----	4
2. 評価項目ごとの評価	
(1) 評価項目1「社会に生きて働く思考力等の育成」 -----	4
(2) 評価項目2「いじめの防止」 -----	5
(3) 評価項目3「キャリア教育の推進」 -----	6
3. 保護者対象学校評価アンケート分析 -----	8
4. 全国学力・学習状況調査分析 -----	9
参考：学校の現況及び目的 -----	10

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1. はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、鳴門教育大学附属中学校の教育活動の観察や校長等との意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

2. 評価の目的

学校評価の目的は、

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

である。

このような学校評価において学校関係者評価は、自己評価の結果を評価することを通じて、

- ① 自己評価の客観性・透明性を高めること
- ② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること

を期待して実施されるものである。

※ 参考 文部科学省（2010）「学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕」

3. 評価のスケジュール

時 期	内 容
28年 7月	第1回学校関係者評価委員会（委員長を選出、評価項目等の確認）
28年 9月	文化祭参観、校長との意見交換
28年 11月	オープンスクール参観、校長との意見交換
29年 3月	第2回学校関係者評価委員会（評価報告書のまとめ）

4. 学校関係者評価委員会委員

○ は委員長（平成 29 年 3 月現在）

山形 拓生	保護者会会長
手束 直胤	本校卒業生 社会福祉法人有誠福祉会・医療法人有誠会理事長 元附属中学校学校評議員
○ 阿形 恒秀	鳴門教育大学教授 元大阪府立布施高等学校校長 元大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課首席指導主事
稲木 紀彦	附属中学校学校評議員 (株)トクジム代表取締役社長 元附属幼稚園学校評議員 元保護者会会長

5. 本評価報告書の内容

本評価報告書の「Ⅱ 学校関係者評価結果」では、

評価項目 1 「社会に生きて働く思考力等の育成」

評価項目 2 「いじめの防止」

評価項目 3 「キャリア教育の推進」

における全ての観点の内容を総合的に判断し、学校の教育活動・学校運営全体に関する総合評価を

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

の 4 段階評価で記述している。

さらに、3つの評価項目についても、各項目で同様の 4 段階評価で記述し、主な「優れた点」「改善を要する点」を併せて記述し、総合評価の根拠・理由を示している。また、「保護者対象学校評価アンケート」と「全国学力・学習状況調査」の結果に関する分析についても記述している。

なお、「参考」として、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目的」を転載した。

6. 本評価報告書の公表

本報告者は、本評価報告書を鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（<http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/004.html>）への掲載により、広く社会に公表する。

Ⅱ 学校関係者評価結果

1. 総合評価

鳴門教育大学附属中学校学校関係者評価委員会は、
評価項目1「社会に生きて働く思考力等の育成」
評価項目2「いじめの防止」
評価項目3「キャリア教育の推進」
の内容を総合的に判断し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

この評価に至った根拠・理由については、以下の「2. 評価項目ごとの評価」において述べる。さらに、評価項目ごとに、主な「優れた点」「改善を要する点」をまとめ、達成度を総括する。

2. 評価項目ごとの評価

(1) 評価項目1「社会に生きて働く思考力等の育成」

評価項目1について、以下に示したように、全ての教科において思考力等を育む教育実践を展開したことにより、「知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視し『生きる力』を育む」という学習指導要領の理念を的確に具現化しており、大いに評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「B 達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、4段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

平成19年に改正された学校教育法では、学校教育の目標を達成するために、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と示された。これを踏まえ、附属中学校では、平成20年度以降、「思考力・判断力・表現力を育む授業の創造」「社会に生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造」を研究主題として、実践・研究が展開されてきた。そして、平成28年度も引き続き、多様で困難な課題を適切に解決することができる力として、社会に生きて働く思考力・判断力・表現力を育成する実践・研究に取り組んだ。

【優れた点】

- ① 国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業（論理的思考）を受託し、社会生活の中で活用される教科横断的な論理的思考力やそれらを表現する力の育成に取り組み、先進モデルを示している。
 - *思考を促す方法「ずべ」を活用して、思考・表現過程の具体化を図っている。
 - *まず自分で考え、その後仲間との意見交換を踏まえて自分の考えを深める「Z型授業構造」を全教科で取り入れている。
 - *課題を解決するための方針を立てる活動や学習を振り返る活動を通じて、汎用的な能力としての思考力等の育成に取り組んでいる。

*よく使われる「思考の要素」が共通する教科のグループをつくり、組織的な教科連携による実践を展開している。

② 評価項目1「社会に生きて働く思考力等の育成」に関する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。

*保護者対象アンケート質問2「先生は生徒が考えたいくなる課題を設定している」に対する肯定的回答（“よく当てはまる”と“当てはまる”の合計、以下同様）は、第1回アンケートでは92.7%、第2回アンケートでは94.9%となっている。

*保護者対象アンケート質問3「先生は、他の教科とも関連させながら指導している」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは88.2%、第2回アンケートでは90.3%となっている。

③ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目1「社会に生きて働く思考力等の育成」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。

*「学習指導（社会に生きて働く思考力等の育成）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A4名、B16名）となっている。

※ 教職員対象自己申告による目標管理は下記3段階で自己評価を行っている。

A 設定目標を上回っている（方策を十分に実践している）

B 設定目標をほぼ達成している（方策をほぼ実践している）

C 設定目標を下回っている（方策をあまり実践していない）

④ 全国学力・学習状況調査の附属中学校の平均正答率は、国語A（主として知識）、国語B（主として活用）、数学A（主として知識）、数学B（主として活用）いずれにおいても、全国（国公私立）の平均正答率を大きく上回っている。

【改善を要する点】

① 組織的な教科連携をさらに促進するために、教科連携のポイントやメリットを整理し、教員間でのコンセンサス形成を図りたい。

② 次期学習指導要領を展望し、「社会に生きて働く思考力等の育成」の実践の成果を、「主体的・対話的で深い学び」につなげていかれたい。

③ 平成28年度に設置された附属学校「共同研究プラン検討会」「幼少中一貫型教育プラン検討会」とも協力しながら、附属小学校との連携をさらに深められたい。

（2）評価項目2「いじめの防止」

評価項目2について、以下に示したように、いじめに関するアンケート調査等を活用して、学校をあげていじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでおり、概ね評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「B 達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としても、4段階評価中の「**B 達成されている**」と評価する。

【学校の取組】

附属中学校では、平成25年6月に公布された「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、平成26年3月に、「附属中学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでいる。また、いじめに関するアンケート調査等の結果を分析し、学校のいじめ防止対

策の検証を行っている。

【優れた点】

- ① 生徒の悩みの把握や、教師と生徒のコミュニケーションの充実に取り組んでいる。
 - *日々の学校生活等について日記を担当に提出する日記指導を展開し、気になる生徒に対しては直接話を聞くなど、生徒状況の把握に努めている。
 - *生徒会の各学級の三役（議員・総務委員・生活委員）と担任との週1回程度の話し合いを通じて、学状況の把握に努めている。
- ② アサーショントレーニングを取り入れた授業実践等を通じて、自分も相手も大切にしたい表現の在り方や他者理解のポイントを考えさせる指導を行っている。
- ③ 評価項目2「いじめの防止」に関する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。
 - *保護者対象アンケート質問16「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは75.6%、第2回アンケートでは75.7%となっている。
 - *保護者対象アンケート質問19「自分の子どもは学校で本音を言える友達がいる」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは86.8%、第2回アンケートでは89.0%となっている。
- ④ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目2「いじめの防止」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。
 - *「生徒指導（いじめの防止）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A2名、B18名）となっている。
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の生徒質問の集計結果から、生徒の学校満足度やいじめ防止の意識が高いことが伺える。
 - *質問番号27「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」について、「そう思う」の回答率が全国国公立中学校の平均を上回っている。
 - *質問番号42「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、「当てはまる」の回答率が全国国公立中学校の平均を上回っている。

【改善を要する点】

- ① 学校がさまざまな実践・研究活動に積極的に取り組む中で、生徒と向き合う時間が十分に確保できない状況が見られるので、校務の効率化等による改善を図りたい。
- ② 道徳教育や人権教育、情報モラル教育に関する教員の理解の充実に向けて、教員研修の充実を図りたい。

（3）評価項目3「キャリア教育の推進」

評価項目3について、以下に示したように、「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」に取り組んでおり、評価できる。したがって、学校の自己評価では4段階評価中の「B 十分達成されている」と判断されているが、学校関係者評価としては、4段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

【学校の取組】

平成23年1月の中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方

について」において、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。附属中学校では、これを踏まえて、高校進学に焦点を合わせた従来型の進路指導からの転換を図り、キャリア教育目標として「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」を掲げ、現実の社会を学ぶ活動等を取り入れながら、キャリア教育の推進に取り組んでいる。

【優れた点】

- ① 清掃活動の活性化を通じて、自分の役割を果たしながら他者と関わり集団に貢献していく態度を育成している。
 - *学年を越えた縦割りグループ（異年齢集団）による清掃活動を導入し、清掃意識の向上を図っている。
 - *朝のメッセージや週目標等において、清掃に係る訴えかけを行い、清掃活動についての啓発に努めている。
- ② 人間関係、社会の一員としての在り方、協働、将来設計などをテーマにした取組を通じて、「かかわる力、みつめる力、すすむ力、えがく力」を育成している。
 - *外国人留学生との交流や幼児とのふれあい体験学習等を通じて、「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」の育成を図っている。
 - *職場体験学習とその発表会等を通じて、「みつめる力（自己理解・自己管理能力）」の育成を図っている。
 - *委員会・係活動・部活動などを通じて、「すすむ力（課題対応能力）」の育成を図っている。
 - *高校体験入学や高校説明会への参加等を通じて、「えがく力（キャリアプランニング能力）」の育成を図っている。
- ③ 評価項目3「キャリア教育の推進」に関係する、保護者対象アンケートの質問事項の回答では、学校の取組が支持されている。
 - *保護者対象アンケート質問21「先生は委員会・係活動や清掃活動を熱心に指導している」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは93.4%、第2回アンケートでは93.8%となっている。
 - *保護者対象アンケート質問27「自分の子どもは家庭で手伝いなどの役割を果たしている」に対する肯定的回答は、第1回アンケートでは68.8%、第2回アンケートでは65.8%となっている。
- ④ 教職員の自己申告による目標管理における自己評価において、教職員は、評価項目3「キャリア教育の推進」について、設定目標を上回っている、もしくは達成していると評価している。
 - *「学級経営・学校経営（キャリア教育の推進）」の自己評価は、教職員全員がAまたはB（A2名、B18名）となっている。
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の生徒質問の集計結果から、自分自身や自分の将来を肯定的にとらえている生徒が多いことが伺える。
 - *質問番号6「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」の回答率が全国国公立中学校の平均を上回っている。

*質問番号9「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」の回答率が全国国公私立中学校の平均を上回っている。

【改善を要する点】

- ① 清掃活動の状況は一定改善されたが、引き続き清掃指導に取り組み、一層の充実を図られたい。また、合わせて、「時間を守る」「物を大切に使う」等の凡事の徹底についても取り組まれたい。
- ② 学校での行動規範が家庭や地域においても具現化できるように、家庭・地域との連携をさらに深められたい。

3. 保護者対象学校評価アンケート分析

附属中学校の平成28年度の重点目標「社会に生きて働く思考力等の育成」「いじめの防止」「キャリア教育の推進」に関して、平成28年12月9日～20日に実施された、平成28年度第2回保護者対象学校評価アンケート（有効回答者数404人）の結果を総括する。

アンケートは、各項目について、「よく当てはまる」「当てはまる」「当てはまらない」「全く当てはまらない」から選び答える形式である。以下の数値の「肯定的回答」とは、「よく当てはまる」「当てはまる」の計を示している。

調査にあたって、学校は、保護者に子どもと話し合った上での回答を依頼しているが、全27の調査項目のうち25項目で肯定的回答が70%を超えており、生徒・保護者とも、本年度の重点目標を概ね達成できていると評価していることがうかがえる。

① 社会に生きて働く思考力等の育成（質問項目1～9）

- 1「先生は楽しい授業となるよう工夫している」… 肯定的回答 97.7%
- 2「先生は生徒が考えたい課題を設定している」… 肯定的回答 94.9%
- 3「先生は、他の教科の学習とも関連させながら指導している」… 肯定的回答 90.3%
- 4「先生はワークシートや板書を工夫している」… 肯定的回答 96.7%
- 5「先生はプロジェクター等のICT機器を活用している」… 肯定的回答 97.7%
- 6「先生は一人一人の生徒の学習状況を理解しようとしている」… 肯定的回答 81.3%
- 7「附属中学校の生徒は自ら学ぼうという意欲をもっている」… 肯定的回答 92.1%
- 8「自分の子どもは様々な課題に対してしっかりと考えようとしている」
… 肯定的回答 86.4%
- 9「自分の子どもは新聞記事やニュース報道に興味をもっている」… 肯定的回答 73.2%

② いじめの防止（質問項目10～19）

- 10「先生は学活や道徳の授業を工夫している」… 肯定的回答 91.1%
- 11「先生は話し合い活動やグループ活動を充実させている」… 肯定的回答 97.7%
- 12「附属中学校の生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」
… 肯定的回答 80.5%
- 13「附属中学校の生徒は楽しい学校生活を送っている」… 肯定的回答 94.1%
- 14「学校は落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある」… 肯定的回答 88.3%
- 15「学校は保護者が先生に相談できる雰囲気がある」… 肯定的回答 79.2%
- 16「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」… 肯定的回答 75.7%

17「学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である」… 肯定的回答 84.5%

18「家庭で相手の立場に配慮した言動を指導している」… 肯定的回答 94.6%

19「自分の子どもは学校で本音を言える友達がいる」… 肯定的回答 89.0%

① キャリア教育の推進（質問項目 20～27）

20「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」… 肯定的回答 87.7%

21「先生は委員会・係活動や清掃活動を熱心に指導している」… 肯定的回答 93.8%

22「附属中学校の生徒はあいさつができています」… 肯定的回答 83.0%

23「附属中学校の生徒は交通ルールやきまりを守っている」… 肯定的回答 76.5%

24「自分の子どもは学校生活において自分の役割を果たしている」… 肯定的回答 94.7%

25「自分の子どもは時間を守っている」… 肯定的回答 87.4%

26「自分の子どもは物を大切に扱い、整理・整頓ができています」… 肯定的回答 66.1%

27「自分の子どもは家庭で手伝いなどの役割を果たしている」… 肯定的回答 65.8%

4. 全国学力・学習状況調査分析

平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語 A（主として知識）、国語 B（主として活用）、数学 A（主として知識）、数学 B（主として活用）いずれにおいても、全国（国公立）の平均正答率を大きく上回っており、学力育成の成果があがっていることがわかる。また、相対的に平均正答率が低かった問題に関連する能力を伸ばすための授業を考案し実施するなど、学校は全国学力・学習状況調査の結果を有効に活用して、授業改善・学力伸長に取り組んでいる。

参考 学校の現況及び目標

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1学年 4学級 2学年 4学級
3学年 4学級 計12学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成28年5月1日)
生徒数 465人 教員数 23人(正規教員)

2 目標

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ② 鳴門教育大学の学部学生の実地教育(教育実習)及び大学院生との教育実践研究等を行う使命
- ③ 教育界の課題の解明に努め、関係機関と連携し、本県中学校教育推進に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学園学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成28年度重点目標(実践事項)

- ① 社会に生きて働く思考力等の育成
 - ア 汎用的な能力としての思考力等の育成
 - イ 組織的な強化連携の実践
- ② いじめの防止
 - ア 生徒の悩みの把握と情報交換
 - イ 本音で語り合う活動の実践
- ③ キャリア教育の推進
 - ア 清掃活動の活性化
 - イ かかわる力、みつめる力、すすむ力、えがく力の育成

(4) 平成28年度評価項目(評価指標)

- ① 社会に生きて働く思考力等の育成
 - ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「先生は生徒が考えたい課題を設定している」
「先生は他教科での学習も踏まえて指導している」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学習指導」
- ② いじめの防止
 - ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある」
「生徒は互いに本音を言える関係にある」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「生徒指導等」
- ③ キャリア教育の推進
 - ア 保護者対象アンケート(7月と12月に実施)
「自分の子どもは家庭で役割を果たしている」
「先生は委員会・係活動や清掃活動を熱心に指導を行っている」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理(2月)
「学級経営・学校運営・校務の処理・その他」